

（様式 1）課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 （2023年度）	② 進捗状況 （2023年度）	③ 評価・検証（事業実施に伴う成果及び課題等の分析等）		
							成果	課題	今後の対応
01-01-01	ジェンダーギャップ解消に関する情報発信	ジェンダーギャップの現状（雇用、意思決定、家事・育児等）とジェンダーギャップ解消の意義・メリット・必要性を発信する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	2021年度に実施した市民意識調査結果などを市ホームページで周知したり、ジェンダーギャップ解消の取組みをメディアを通じて発信した。また、豊岡市に関わりのある有識者から国内外へ広く発信いただいた。	◎ 実施した	市内の地域コミュニティや自治会単位でも、意識的に取組みを検討されるところが出てきている。豊岡市のジェンダーギャップ解消の取組みが国内でも注目されるようになり、近隣市町や他自治体との横展開につながっている。	まだまだ点での変化であり、面の変化に繋げていくには長い時間がかかる。	好事例などを積極的に発信し、理解浸透につなげていく。
01-01-02	ジェンダーギャップ解消の必要性（アンコンシャスバイアスを含む）理解促進教材の制作・活用	まんがによる啓発冊子を制作し、講座等での活用や、市HP等で広く発信する。（ジェンダーギャップ職場・地域・家庭編）	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	豊岡市のオリジナル意識啓発マンガ第1弾の6話と第2弾の8話を市ホームページに掲載したり、研修会で活用する等意識啓発に努めた。	◎ 実施した	無意識の偏見や思い込み、ジェンダーギャップについて、マンガにより分かりやすく伝えることができています。		引き続き、わかりやすく伝える工夫をする。講座などでの活用を検討する。
01-01-03	市民講座・体験型ワークショップ等の実施	地域コミュニティ組織、区長連合会、区長協議会、経済団体等を対象としたジェンダーギャップ解消に向けた理解促進のための講座・体験ワークショップを実施する。 ※関係課と連携	地域づくり課・振興局・総務課・ジェンダーギャップ対策室	地域づくり課	・ジェンダーギャップ解消に向けた理解促進のための講座、女性や若者など多様な方が参加できる仕組みについて考える研修会を実施 地区別：竹野1回	◎ 実施した	竹野の地域コミュニティ組織では各地区から人を集め、新たにジェンダー視点を入れた地域づくりについて考える人が増えた。	研修会に参加していない地域コミュニティ組織の方や地域に広げていく方法が課題。	事例を紹介し、他組織へ広げていく。併せて、それぞれの組織内で研修の機会を多数設ける。その為にも、ジェンダーについての映像研修教材を提供いただきたい。
				竹野振興局地域振興課	【コミュニティだけの】 12/17 竹野地区コミュニティセンター コミュニティだけの主催の「年齢や性別にかかわらず支え合う地域づくりを目指して」地域づくり研修会を実施 コミュニティだけの役員、竹野地区区長協議会及び各地区から住民も参加 合計38名 （男性24名、女性14名）	◎ 実施した	コミュニティの役員や区長だけでなく、地域住民の方にもジェンダー解消に取り組む機会づくりができた（女性も含む）	単位行政区の長はすべてが男性である この研修を足掛かりに地区役員構成の男女比率等に役立ててほしい	今後も継続して地域の方を対象としたジェンダーギャップ解消に向けた理解促進のための研修等を実施する
				総務課	実績なし	△ 実施するかどうか検討中	実績なし	任期1年の区長が多数を占め、ジェンダーギャップ解消への理解深化と広がりにには継続的な働きかけが必要。	関係課と連携した理解促進の機会や情報提供を行う。
				多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	ジェンダーギャップ解消に向けた理解促進のための講座、女性や若者など多様な方が参加できる仕組みについて考える研修会を実施 ①地域コミュニティ組織、自治会、教職員対象研修会・ワークショップを実施 ・福田区 27人 ・市立学校園の管理職、教職員等 698人 ・五荘小学校PTA教育講演会 257人 ・公私立幼・保・こども園の管理職、教職員 28人 ・コミュニティだけの 38人 ②地域コミュニティ組織の役員、マネージャー対象フォローアップ意見交換 ・コミュニティだけの ・コミュニティ城崎 ・コミュニティたかはし	◎ 実施した	・福田区では、これまでの区の組織運営は、男性都合（男性中心）で行われてきたことを理解し、女性も若者も参画しやすい事業に見直していくこととされた。 ・コミュニティたけのでは会長1人、副会長2人、会計1人の4人のうち、2人が女性となった。	研修・ワークショップの参加者の多くが、自分の中にある無意識の偏見や思い込み、固定観念などに気づき、意識や行動が変わったという方が多いが、さらに地域内にどのように浸透させていくかが課題となっている。	モデル地区として研修を行った地域に、さらにその後の変化などを確認しながら、地域への浸透に向けて活動支援を行う。地域の変化などの好事例を広く発信する。対象ごとに引き続き意識啓発に取り組む。
01-02-01	ジェンダーギャップ解消の取組み事例を発信	事業所・行政機関・地域・教育機関等における取組み事例や市民の声を市広報、ホームページ等で周知・啓発する。	ジェンダーギャップ対策室・関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	各事業の取組みを市広報、市ホームページで周知した。	◎ 実施した	職場、地域、家庭、学校等の分野における取組みや参加者の意識・行動の変化などについてまとめ、市民の声を広く発信することができた。	発信方法	今後も取り組み事例を広く周知することに努め、効果的な発信方法を検討する。
				地域づくり課	「みんなで考えるコミュニティの未来フォーラム」でコミュニティ城崎のジェンダーギャップ解消の取組み事例発表	◎ 実施した	会議や運営での高齢男性役員の姿勢について参加者に共有できた。	他の事例についても紹介が必要。	他の事例についても周知していく。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
01-02-02	外国人住民の声を発信	多様な文化や背景を持つ外国人住民の声を市広報・ホームページ等で発信する。また、地域や行政等の会議に外国人住民も参加し、意見を反映させる。	地域づくり課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	・市広報、ホームページに掲載 「多様な人々とともに生きよう～多様性を受入れ、支えあうまちに～」を連載(4名紹介) 「生活・文化・言葉等の違いで地域や社会で困っている外国人の方がいませんか 市役所本庁舎に外国相談窓口を設置」を掲載(1名紹介) ・豊岡市多文化共生推進会議の委員に外国人市民代表として2名を選任した。 開催回数:2回 開催日等: 7月10日(月)出席者16名、傍聴者9名 2月2日(金)出席者15名、傍聴者8名 ・やさしい日本語講座 開催日:9月8日(金) 参加者:22名 講師:にほんごプラス 河本 美代子氏 外国人ゲスト:外国人市民 3人 対象者:市職員 ・出前講座の実施(豊岡市日高民生委員・児童委員協議会3月定例会) 開催日:3月19日(火) 参加者:45名 講師:顔 冰氏 ・人権研修会「音楽とお話のつどい～多文化共生」 開催日:1月27日(土) 参加者:91名 講師:玉城 ちはる氏 対象:市民	◎ 実施した	・外国人市民の声を発信したり、聴くことができた。 ・外国人市民代表の意見を聴くことで、多文化共生施策の改善につながった。 ・外国人市民に参加してもらい、やさしい日本語が伝わっているか確認できた。 ・外国人市民が講師となり、日本で生活する中での困り事や自身の活躍する姿を発信することで、外国人市民に関する民生委員・児童委員の理解が深まった。 ・10年間ホストマザーとして、外国人留学生など延べ36人を受け入れた経験談を聴くことで、異文化の者同士が共に生きることの大切さと、他者を理解し受け入れることの難しさについて知る機会となった。	今後も増加傾向にある外国人市民の声を広く聴き、施策に活かす必要がある。	・市広報等への掲載を継続するとともに、多文化共生推進プランを推進するための推進会議に、引き続き外国人市民に参画していただく。 ・ワークショップ等で外国人市民の声を聴く。
01-03-01	ジェンダーギャップ解消推進アドバイザーの設置	市の政策にジェンダー視点を主流化する等のジェンダーギャップ解消の取組み全般に対して、専門的立場から助言等を行うアドバイザーを設置する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	2019年6月からアドバイザーを設置し、取組み全般に対して助言、ご教授いただき、取組を推進している。(関西学院大学客員教授 大崎麻子さん)	◎ 実施した	市民委員による戦略会議や市職員で構成する庁内推進委員会においても的確な助言を受け、取組みを推進できている。		引き続き支援をいただきながら、ジェンダー視点の主流化に向けて取り組む。
01-03-02	ジェンダーギャップ解消に関する条例制定	市民一人ひとりが「自分ごと」として捉え、ジェンダーギャップ解消が持続可能な取り組みとなるよう条例化を検討する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課		× 実施を検討していない			
01-03-03	市の施策にジェンダー視点の主流化を推進	男女別データの収集・分析、ジェンダー分析に基づいた施策の立案、実施、モニタリング、評価を行う。(※ジェンダー統計の実施と事務事業の評価・改善)	ジェンダーギャップ対策室・全課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	ジェンダーギャップ解消庁内推進委員会において研修を実施した。	◎ 実施した	庁内推進委員会において、ジェンダー統計やジェンダー分析について学び、ジェンダー視点のある政策・事業を策定することの重要性を学び、理解を深めることができた。	これから仕組みを検討していく段階である。	いくつかの政策領域において検討する。
				多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	外国人の男女別データを収集・分析し、豊岡市多文化共生推進プランに基づき、事業を実施した。	◎ 実施した	外国人支援団体等関係機関や庁内での理解が深まった。	外国人のうち女性は約60%であり、ジェンダーの視点を持った施策も検討する必要がある。	毎月、男女別等の外国人データを取得するとともに、プランに沿った事業を展開する。
01-03-04	男女別データ集の作成・発信	主要な政策領域における男女別データ集を作成し、ジェンダーギャップの現状を客観的に可視化して発信	ジェンダーギャップ対策室・関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	有識者から講義を受けるなどし、必要性について理解を深めたが、現段階では男女別データ集の作成までに至っていない。	△ 実施するかどうか検討中			
01-03-05	ケアワークの社会的価値等の啓発	保育や介護、看護のケアワークの社会的価値などについて市広報、ホームページ等で周知・啓発する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	意識啓発研修・ワークショップではケアワークの社会的価値等にも触れ理解促進に努めているが、市広報等での周知・啓発はまだ行っていない。	△ 実施するかどうか検討中			
01-03-06	地域おこし協力隊の募集・受け入れ	まちのジェンダーギャップ解消の取組みを推進する協力隊員を募集する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課		× 実施を検討していない			

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
02-01-01	地域啓発推進アドバイザー の設置	ジェンダーギャップ解消推進に取り 組む地域等に対して、体験型 ワークショップを実施し、専門的 立場から助言等を行うアドバイ ザーを設置する。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェン ダーギャップ対策課	2021年度からアドバイザーを設置して意識啓 発研修やワークショップを実施している。 2023年度 福田区、市立学校園の管理職・教職員等、五 荘小学校PTA教育講演会、公私立よ幼・保・こ ども園の管理職・教職員、コミュニティたけので 意識啓発研修やワークショップを実施した。参 加者延べ1,048人(国立女性教育会館理事長 萩原なつ子さん)	◎ 実施した	・福田区では、これまでの 区の組織運営は、男性都 合(男性中心)で行われて きたことを理解し、女性も 若者も参画しやすい事業 に見直していくこととされ た。 ・コミュニティたけのでは会 長1人、副会長2人、会計 1人の4人のうち、2人が 女性となった。	研修・ワークショップの参 加者の多くが、自分の中 にある無意識の偏見や思 い込み、固定観念などに 気づき、意識や行動が変 わったとされる方が多い が、さらに地域内にどのよ うに浸透させていくかが課 題となっている。	モデル地区として研修を 行った地域に、さらにその 後の変化などを確認しな がら、地域への浸透に向 けて活動支援を行う。 対象ごとに引き続き実施 する。地域向けのインセン ティブの導入についても検 討する。
02-01-02	地域づくり計画に多世代・ 多様な人の意見を反映させ る仕組みづくり	地域づくり計画策定に伴うアン ケート調査、インタビューに世帯 主だけではなく、女性、若者も対 象者とし合意形成を図る。	地域づくり課	地域づくり課	全住民アンケートの実施 地域の多様な人を集めたWSの開催	◎ 実施した	地域づくりに女性や若者 などの意見も取り入れる べきという考え方が地域 に根付いた。	意識付けはできたが、ま だ女性、若者の参加率が 低い。	オンラインやSNSを活用し て意見を聴く仕組みづく りをする。 継続してWSを開催する。
02-01-03	地地域コミュニティ組織の ジェンダー視点を踏まえた 活動支援(地域の避難所運 営等)	市全体の災害応急対策や復旧・復 興業務を迅速に進めるためには地 域住民の協力は不可欠である。地 域住民が広く参画し、大規模災害 時における指定避難所の運営を行 うことができるよう地域避難所運 営マニュアル等の策定を支援す る。	危機管理課	危機管理課	出前講座等で、ジェンダー視点に立 った地域避難所運営マニュアルの 作成について啓発を行 ったが、新たに作成した地域コ ミュニティ組織はなかった。	◎ 実施した	なし	地域避難所運営マニユア ルの作成には、時間・マン パワーが必要なため、実 施へ踏み切れない組織が 多い。	引き続き、ジェンダー視 点に立った地域避難所運営 マニュアル作成への啓 発、作成を検討する組織 への支援を継続する。
02-01-04	ジェンダー視点に配慮した 地区集会施設整備支援(補 助金)	「地区集会施設整備補助金」の対 象事業に、多目的トイレやトイレ 内間仕切りの設置に対する補助メ ニューを項目追加する。	総務課	総務課	改修に係る工事費には、建具及び建築設備の 改修に係る経費が含まれる。	△ 実施するかどうか検討 中	申請件数5区のうち、多目 的トイレへの改修申請は 無し。	補助対象の事業費が 2,000,000円以上と高額。 大規模な改修工事が対象 となっている。	2024年度以降も継続。 相談時にジェンダー視点 への配慮について示唆す る。
02-01-05	意思決定の場に女性や若者 が参画している地域へのイン センティブ導入検討	地域コミュニティ活性化交付金 「活動促進事業交付金」につい て、女性や若者が意思決定に参画 している地域への交付金の導入を 検討	地域づくり課	地域づくり課	取組みなし	× 実施を検討していない			
02-01-06	地区要望に女性や若者目線 の意見を取り入れる取組み を促進する。	ー				× 実施を検討していない			
02-02-01	地域の会議や行事に女性や 若者をはじめ多様な人が参 加できる仕組みづくり(見 直し含む)	・会議のあり方をリモートで自宅 でも参加できるように環境を整え る。 ・子連れで参加できるような雰 囲気の会議体制を用意する。	地域づくり課・振興 局	地域づくり課	・全29地区コミュニティにWiFi整備済み。 (再掲)・女性や若者など多様な人が参加で きる仕組みについて考える研修会を実施 地区 別:竹野1回	◎ 実施した	多様な方の意見を聞く方 法を各地域コミュニティ組 織で考えるようになった。 SNSを活用して、会議案 内、出欠確認が安易とな るとともにSNSでつなが った。	WSで発言しやすい雰囲気 づくりについてはできた が、リモートや子連れでの 会議参加などについて は、実践が少ない。	少人数でもまず実践して みることを進める。 SNSでつながり、参加案内 を個別に気軽に届けられ る仕組みをつくる。
				竹野振興局地域振興 課	【竹野南コミュニティ】 子育て親子が参加する事業には、見守り 子守ボランティアを配置して支援	◎ 実施した	小さな子どもを連れて、外 出することは、親にとって 大変だが、集まりなどに参 加することで親子のリフ レッシュにつながり、地域 の人と親子のつながりつ くりにもなる	特には感じない	必要に応じて対応する。
02-02-02	地域の人材を発掘・育成 (女性や若者向けの地域づ くり研修)	I C Tを活用した女性や若者向け の研修が実施され、内発が高まる ようなグループ活動の取組みがあ る。(新規事業として、活動促進 交付金の活用を検討する。)	地域づくり課・振興 局	地域づくり課	取組みなし	○ 実施する予定がある			
02-02-03	地域防災リーダーの活躍機 会の提供と市の取組の情報 提供①	兵庫県が実施する「ひょうご防災 リーダー講座」が3年に1回、但 馬地域内を会場に実施される。こ の講座への受講に女性の参加を 広く呼びかけ、受講いただくこと により、地域の防災リーダーを増 やし、地域防災力向上につなげ る。地域の防災の取組みにス ムーズに参画いただけるよう市 から地域に対し、講座受講者情 報を提供する。	危機管理課	危機管理課	但馬会場での実施なし	× 実施を検討していない			
02-02-04	地域防災リーダーの活躍機 会の提供と市の取組の情報 提供②	地区の自主防災組織、地域コ ミュニティの防災関係の部会にお ける女性の参画の促進を図り、地 域の防災力の向上につなげる。	危機管理課	危機管理課	自主防災組織実態調査において、組織代表者 と構成員における女性の人数を調査した。	◎ 実施した	市内自主防災組織の代表 者と構成員における女性 の人数を確認ができた。	地域コミュニティの防災関 係部会における女性の参 画状況が把握できていな い。	引き続き、自主防災組織、 地域コミュニティ防災関係 部会への女性の参画に関 して促進を図る。

（様式１）課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
02-02-05	防災ワークショップ・防災 出前講座等への参加促進	①国、社会福祉協議会、地域コ ミュニティの協働により開催して いる防災ワークショップ（年3組 織程度）と②防災課の出前講座に は必ず複数の女性の参加を要件と して女性の参画を促進する。	危機管理課	危機管理課	ワークショップ、出前講座等の依頼があった 際、また打ち合わせ等の場において、積極的 な女性の参加を依頼した。	◎ 実施した	全ての講座ではないもの の、女性の参加も増加し ている。	出前講座等への参加を促 進しても、依頼団体の組 織員に女性がいらない場 合、参加自体が難しい場 合がある。	引き続き女性の積極的な 参加の依頼を行う。
02-02-06	女性の消防団員の入団促進 の検討・実施	市では多団制を採用しているた め、まずは女性団員を採用してい る団に対し、団員確保の観点か ら、消防団幹部や現役女性団員へ のヒアリングを実施し、女性消防 団員の消防活動についての参画可 能性や現在の消防団における女性 参画に係る課題等を把握したうえ で、女性消防団員の入団拡大方針 等の是非を含めて検討する。 ※予防広報の他、消火活動現場 活動にあっては、火災罹災者への 対応（地区の会館等でのケアや各 種手続きの簡単な説明などが考え られる）	危機管理課	危機管理課	積極的な入団促進により、女性消防団員が3 人入団した。	◎ 実施した	3名入団(出石消防団)	女性消防団員が行える活 動が少ない。	女性消防団員が所属する 豊岡・日高・出石消防団の 女性団員による意見交換 会の場を設け、共通の課 題や、好事例などを共有 し、活動の強化につなげ る。
02-02-07	議会・政治参加の魅力発信	議会活動の情報発信や議会傍聴の PRに努めるとともに、女性や若 者を中心とした意見交換会等の実 施などを通して、議会・政治参加 への関心を高める。	市議会 (議会事務局)	市議会 (議会事務局)	議会活動について、HP、防災無線、議会だよ りの発行により情報発信した。本会議の傍聴、 市民団体との懇談会等の参加についても広く 募集を行い、高校生の団体ミクスーズ、兵庫 県立大学豊岡コウノトリ湿地保全部隊などと意 見交換をすることができた。	◎ 実施した	さらに女性や若者の参加 を増やす取り組みが必 要。	懇談会については、女性 団体等に対し個別に参加 への働きかけを行う。	懇談会については、開催 方法の見直しの検討や、 女性団体等に対し個別に 参加への働きかけを行う。
02-02-08	地域の女性リーダー育成プ ログラムや政治参加プログ ラムの検討・実施（まちづ くりに関する女性会議等）	—	ジェンダーギャップ 対策室・関係課	多様性推進・ジェン ダーギャップ対策課	女性人材育成プログラム「豊岡みらいチャレ ンジ塾2023」を開講し、全5回を実施した。受講 者23人。コーチングの専門家のキャリア相談を 実施し、全員が面談を受けた。	◎ 実施した	ありたい姿に向けて一歩 踏み出すなどエンパワ メントにつながった。受講 者からの評価も高く継続 実施を望む声が多い。 修了生のチャレンジとし て、ゲストハウスの開業や 社会保険労務士事務所の 開設をされた方などがあ る。	土曜開催のため、事業所 からは参加させにくいとい う声がある。	3年間で修了生同士の ネットワークも広がってい る。新たにチャレンジする 機運を継続させるためにも 事業の継続を行いたい。
				地域づくり課	取組みなし	× 実施を検討していない			
02-03-01	女性や若者の声を聴く意見 交換会・ワークショップを 開催し、解決策などを考え る。	—	関係課	地域づくり課	コミュニティなかすじが若者交流事業の中 で、若者を対象に、若者が参加したい事 業、やってみたい事業について、ワーク ショップを行った。	◎ 実施した	若者が参加したい事業は 聞き取れた。	若者が実際に参画したい 事業については、聞き取 れなかった。	少人数でも参画してくれそ うな若者にターゲットを 絞って、一緒に企画運営 を行う。
				竹野振興局地域振興 課	1 若者会議 3つのグループに分かれて協議し延べ8 回開催した。 2 竹野地域20～40代の交流&意見交換 会 10月と2月の2回開催した。 (参考:参加者10月時22名、2月時26名)	◎ 実施した	若者会議のメンバーはほ ぼ昨年と同じであったが、 交流&意見交換会を新た に行い、より多くの人の意 見を聞ける場を設けること ができた。また、参加者内 でライングループを作成 し、常日頃から意見交換 や連絡が取れる場づくり ができた。	—	—
				消防本部	①2023年7月15日に、職業説明会(性別 問わず)を開催。男性4名が参加。 ②職業説明会(性別問わず)に加え、2024 年3月25日に女性向け消防職業説明会を 開催し、1名が参加。	◎ 実施した	①女性だけでなく、男性に も広く消防職を知ってもら うために開催し、男性4名 が参加した。うち1名は、 当本部の職員として採用 された。(2024年度採用 者) ②①において女性の参加 者がいなかったことから、 3月に急遽開催し、1名の 参加をいただいた。当本 部を受験予定ということも あり、活発な意見交換が 行われた。	女性向け消防職業説明会 については、急遽開催で あったことから、募集期間 が短かったため、例年に 比べ参加者が少なかった。 SNS等を活用した広報 や申し込み方法をオンライ ンにする等、工夫を講じた が、計画的な企画・立案 が一番重要であると感じ た。	開催方法について、これ まで男女合同での開催、 女性だけの開催、男女合 同・女性だけの年2回開催 と、試行錯誤しながら開催 してきたものである。過去 の参加状況等を勘案し、 より良い方法を検討、実 施方法の定例化を行うこと が事務を行う上でも必要 と考えている。

（様式１）課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
02-03-02	さまざまな分野における女性の参画率の向上	—	関係課	人事課	豊岡市職員安全衛生委員会(毎月1回開催) 委員20人中女性委員9人 ※小委員会として子育て支援プラン推進委員会を組織(毎月1回開催) 委員16人中女性委員8人	◎ 実施した	2017年度以降、委員の人数を増やしたこともあり、女性委員の割合50%以上は達成できなかった。	女性委員の増員	「女性委員の参画促進」は継続して取り組むこととし、数値目標「女性委員の割合50%以上」も引き続き設定する。
				人事課	豊岡市職員功労者表彰審査委員会 委員7人中女性委員2人	◎ 実施した	2017年度以前は女性委員がいなかったが、以後は1名以上を任命している。	部長級の中から委員を選考しており、女性2名しかいない。	「女性委員の参画促進」は継続して取り組むこととする。
				危機管理課	豊岡市防災会議・豊岡市国民保護協議会 委員41人中女性委員6人	◎ 実施した	委員41人中女性委員6人(2024.2.26時点)	委員選考は、関係機関の代表者が選出されるケースが多く、性別を条件とした選考は難しい。	性別を限定できる団体については、引き続き協力を求める。
02-03-02	さまざまな分野における女性の参画率の向上	—	関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	豊岡市多文化共生推進会議 委員：14名(うち女性6名) 開催回数:2回 開催日等: 7月10日(月) 出席者17名、傍聴者9名 2月2日(金) 出席者15名、傍聴者8名	◎ 実施した	特に外国人市民代表2名は、女性の参画を促すことができた。	委員選出にあたり、関係機関に一任しているため、女性の選任を依頼する必要がある。	女性委員の割合が50%になるよう努める。
				国保・年金課	豊岡市国民健康保険運営協議会 委員12人中女性委員5人(2023.4.1時点) 2回開催(1/10、1/17)	◎ 実施した	委員12人中女性委員5人(2023.4.1時点)	各団体の実情に応じた選任者を本協議会へ推薦いただくため性別を限定することが難しい。	性別を限定できる団体については、引き続き協力を求める。
				こども未来課	子ども・子育て会議 任期:2022.7.1～2024.6.30 女性委員11人/17人(年度末時点) 開催回数3回	◎ 実施した	女性の意見を多く汲み取れた。	委員選定にあたり、関係機関に代表を選出してもらうケースもあり、「女性で」とお願いするには限界がある。	子どもの保護者(幼保こども園小中)、子ども・子育て支援事業者、地域の方、学識経験者等から構成される会議。 今後も、女性委員の割合が50%以上になるよう努める。
				農業委員会事務局	任期満了に伴う委員改選により、女性委員の登用について関係機関等への働きかけを行った。	◎ 実施した	農業委員:4名 農地利用最適化推進委員:女性なし 女性の割合:9.3%	推薦者の大半が区長会であるが、区長会自体の女性参画は少ない。女性を構成員とする団体等への働きかけが必要。	次期の改選期においては、さらに積極的に関係機関等への働きかけを行う。
				下水道課	公営企業審議会 任期:2022.6.1～2024.5.31 女性委員:3人/10人 開催回数:1回	◎ 実施した	可能な限り、女性委員を登用しようと意識して取り組めた。	委員選考にあたり、関係機関に代表を選出してもらうケースもあり、「女性」というだけで選考するには限界がある。	学識経験者(2人)、関係機関の代表者(4人)を除いた部分で女性委員の割合が50%になるよう努める。
				コウノトリ共生課	豊岡市環境審議会 任期:2022.5.26～2024.3.31 女性委員8人/15人 開催回数4回	◎ 実施した	委員の半数以上が女性であり、女性の意見を広くみ取れた。	事業者に委員選出を一任しており、女性委員の希望を伝えても、女性管理職などの適任者がいないため、男性が選出される。	事業者へ女性委員の選出に配慮いただけるように、引き続き依頼する。
				新文化会館整備推進室	豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会 委員8人中女性委員4人 2023年度 開催回数:5回 開催日:5月25日、8月22日、11月20日、2024年1月16日、3月19日	◎ 実施した	女性の視点からの意見を多く汲み取れた。	特になし	計画が策定されれば、本委員会は終了となるが、今後も女性の参画率の向上のため、委員会を設置する場合は、女性委員の割合が50%以上になるよう努めるなど、取り組んでいきたい。
02-03-03	女性、若者の視点を取り入れた政策の推進(暮らし、子育て支援、まちづくり、公共交通など)	—	関係課	地域づくり課	地域別研修会 竹野1回 (フォローアップ意見交換会 城崎、竹野、高橋各1回)	◎実施した	研修会では、ジェンダー視点の主流化について新たな参加者に周知ができ、意見交換会では、継続的にジェンダー視点を入れて地域づくりを行うことが確認できた。	研修会に参加していない地域コミュニティ組織の方や地域に広げていく方法が課題。	事例を紹介し、他組織へ広げていく。併せて、それぞれの組織内で研修の機会を多数設ける。その為にも、ジェンダーについての研修映像教材を提供いただきたい。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
				竹野振興局地域振興課	若者会議 3つのグループに分かれて協議し、延べ8回開催した。	◎ 実施した	若者会議での意見より2024年度事業として、竹野のお仕事図鑑の作成と移住者向けイベントへの広報、新たな竹野空き家対策事業を予算付けを行った。 2024年度 メンバー12人(うち女性6名)	-	-
03-01-01	ワークイノベーション推進 会議への加入促進	女性が働きたい(働きがいがあり、働きやすい)職場への変革に積極的に取り組む市内事業所が、課題やその解決方法の共有・検討を行う推進会議への加入を促進する。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	2023年度 加入事業所数 22 (累計111事業所)	◎ 実施した	203年度 加入事業所数 22 (累計111事業所)	入会しただけの会員の具体的な取組みへの誘導	引き続き実施
03-01-02	ワークイノベーションの推進(事業所向け) ・経営者、管理職、人事担当者向けセミナー	市内事業所の経営者、管理職、人事担当者向けに演劇ワークショップや無意識の偏見の理解、マネジメントノウハウ、男性育休、イクボス、女性活躍推進等のテーマでセミナーを開催する。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	若手従業員向けセミナー(8/18、9/29)	◎ 実施した	参加者数 延べ19事業所49人	・テーマの設定 ・参加者層の裾野をどう広げていくか	引き続き実施
03-01-03	ワークイノベーションの推進(事業所向け) ・女性のためのキャリア形成支援セミナー	市内事業所の女性従業員向けにキャリアデザイン講義、ロールモデル座談会、演劇ワークショップ、Will(やりたい姿)ワークショップ等を開催する。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	女性マネジメント層向けセミナー(9/29、10/27)	◎ 実施した	参加者数 延べ37事業所53人	多様な業界・業種からの参加	引き続き実施
03-01-04	キャリアデザインアクションプランの推進(市役所向け)	豊岡市役所キャリアデザインアクションプランを推進し職員の自律的なキャリア形成意識の醸成を図る。求める職員像とキャリア形成に必要なキャリアパスを示し、人材育成を推進する。	人事課	人事課	・管理職の意識やスキルが職員の育成に大きな影響を及ぼすという仮説を置き、マネジメント力の向上を目指した。 ・配属や仕事の配分の平等な機会確保 ・後期プラン実践 ・女性管理職の登用 ・eラーニング研修の実施	◎ 実施した	研修 のべ904人	残念ながら、ロールモデルとしてふるまえる人材が育っていない。	女性職員が、たてにつながらるしくみの研究
03-01-05	入札参加資格申請に主観点数加算項目を追加	入札参加資格審査の主観点数加算項目にジェンダーギャップ解消に関連する項目を追加する。	総務課	総務課	主観点数加算項目に、「豊岡市ワークイノベーション推進会議に加入」または「豊岡市ワークイノベーション表彰の受賞歴」を追加した。 ※改正した資格格付要領を2022年1月1日から施行し、2022・2023年度入札参加資格申請分より適用	◎ 実施した	市内18業者が当該項目で主観点加算を申請している。	主観点加算申請を行うかは業者に委ねられているため、項目追加によりどの程度の影響、誘引力があるかが不明。	2024年度以降も継続して当該項目の主観点加算を行う。
03-01-06	女性の消防職員の採用促進	消防職員の女性の採用増加に向けた就職説明会及び職場体験学習会を実施する。(管内の高校生を対象)	消防本部	消防本部	①2023年7月15日に消防職業説明会(性別問わず)を開催した。 ②2023年12月10日に消防庁・マイナビ共催による女子学生を対象とした職業体験イベントにスタジオ出演し、参加した。 ③消防職業説明会(性別問わず)に加え、前述説明会において、女性の参加者がいなかったことから、急遽ではあったが、女性向けの消防職業説明会を2024年3月25日に開催した。案内ポスターを市内の高校、大学へ配布した。また、SNS等を活用し、参加者を募った。なお、参加対象者は、高校生に限らないこととした。	◎ 実施した	①男性4名のみの参加であり、女性の応募者がいなかった。 ②消防庁主催のイベントに一昨年に引き続き参加した。前回はWEB出演であったが、東京でのスタジオ出演を要望し、出演に至った。全国の女子学生に対するWEB配信で、豊岡市消防本部のPR含め採用促進を図るなど、管内だけではなく、広く女性の採用増加につながる試みであったと捉えている。 ③①において、女性の参加者がいなかったことから、急遽開催した。1名の参加であったが、当本部を受験予定ということもあり、活発な意見交換が行われた。	昨年、女性に限らず消防職を志す人材が減少していることから、男性も含めた体験・説明会を実施するとして、性別を問わず説明会を開催したが、女性の参加者が0人であった。急遽、女性向けの説明会を開催したが、準備期間が短く、多数の応募者が得られなかった。職業説明会の開催の案内、方法等についてより良い方法を検討する必要があると感じた。	消防庁主催のイベントに参加することは、当本部のPRや採用促進について有意義な事業であった。今後も管轄地域に限らず、他の地域でもPRすることは重要と考え、積極的に広報イベント等に参加していく。このほか、SNS等を活用した広報を発出し、興味・関心を持たれる消防本部となるため、継続して広報を行っていく。体験・説明会のあり方については、より良い方法を検討し、女性消防職員の採用促進に対する説明会等を継続していく。
03-01-07	ハラスメント防止対策に関する啓発	職場におけるセクシャルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメント、パタニティハラスメント等の防止に向けた意識啓発を行う。 (⇒事業所は対策を講じる)	ジェンダーギャップ 対策室・人事課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課		×	実施を検討していない		
				人事課	・掲示板での啓発(防止の徹底、外部相談窓口)	◎ 実施した			

（様式１）課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 （2023年度）	② 進捗状況 （2023年度）	③ 評価・検証（事業実施に伴う成果及び課題等の分析等）		
							成果	課題	今後の対応
03-02-01	優良事業所の表彰	豊岡市ワークイノベーション表彰制度「あんしんカンパニー」に基づき評価基準を満たした事業所を認定する。また認定事業所の事例発表会を開催する。※仕事のマルチタスク化推進、ロールモデルづくり	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	表彰事業者数 〇（累計4）	◎ 実施した	表彰事業者数 〇（累計4）	受賞に向けたサポート体制の構築	引き続き実施
03-02-02	入札参加資格申請に主観点数加算項目を追加	（再掲）	総務課	総務課	03-01-05参照				
03-03-01	ワークイノベーションの推進（事業所向け）	（再掲）	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	03-01-01～03参照				
03-03-02	キャリアデザインアクションプランの推進（市役所向け）	（再掲）	人事課	人事課	年1回の職員意識調査	◎ 実施した	経年変化確認 課題注視	課題解決として即効性のある手段実行が困難	組織風土の改善に向け歩みを止めない
03-04-01	育児休業・育児目的休暇の取得促進（男女ともに）	ワークイノベーション推進会議での啓発や、市内事業所の事例などを市広報、市ホームページ等で発信する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	あんしんカンパニー2021受賞企業の取組事例発表 参加者：27事業所34人 市広報で国・県等の各種表彰制度の受賞・認定企業を紹介	◎ 実施した	市内事業所の取組を共有できた	育児休業・育児目的休暇の取得のみに限らず、働きやすく働きたいのある事業所の取組を発信。	引き続き実施
03-04-02	男性の育児休業取得促進	市職員向けの育児休業取得促進啓発資料を活用した意識啓発を行う。	人事課	人事課	キャリアサポート面談により、上司と部下で情報を共有し、育児休業の取得に向けた声かけや、取得しやすい職場環境づくりや業務の割り振りの検討を促した。	◎ 実施した	男性の育児休業取得率100%（2/1時点） 14人/14人中	専門職や、配属人数の少ない部署においては、取得することが難しい場合がある。	引き続き啓発実施
03-04-03	男性の家庭進出と女性の社会進出の促進・啓発	市広報、市ホームページ等で周知・啓発する。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	研修会・ワークショップで理解促進に努めている。	◎ 実施した	研修・ワークショップの参加者は、今までを振り返り、見つめなおすきっかけとなっている。		
03-04-04	保育サービスの充実	育児休業時の保育所等継続入園対象児の拡大を検討する。	幼児育成課	幼児育成課	育児休業時の保育所等入園継続対象児を3歳児まで拡大し、2023年4月より実施した。	◎ 実施した	継続入園の対象児を拡大することができた。	園の受け入れ態勢の整備と待機児童解消。	育児休業時の保育所等入園継続対象児の拡大について、引き続き課題等検討する。
04-01-01	男女の家事・育児時間、収入格差の客観的な可視化	子育て世帯における男女の家事・育児時間を可視化（アンケート調査を実施）、男女の収入格差の可視化（課税データにより把握）等を行い、実態把握により必要な施策の検討を行うとともに、市民への啓発を行う。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	「暮らしの中の性別役割分担の実態と意識調査（2021）」を実施し、子どもがいる男性・女性の時間の使い方などについて可視化し、市ホームページで公表している。また、研修会等でも結果を説明するなどして啓発している。	◎ 実施した	子育て中の男女の家事育児時間の差や、認識の差が明らかになり、その現状を伝えることができている。		調査結果を研修会などで説明し、性別役割分担について考えるきっかけとする。 次回の調査は、後期計画の検討年度（2025年度）に調査予定。
04-01-02	男女で支え合う家庭生活の基盤づくり促進	男女で育児、家事を分かち合う必要性を理解するための両親学級・プレパパセミナーの検討・実施。	こども未来課・ジェンダーギャップ対策室	こども未来課	赤ちゃんのお世話体験会：21回開催（妊婦88人、家族77人） マタニティ＆パパママベビー交流会：6回（妊婦32人、家族25人） 離乳食づくり体験会：6回（妊婦53人、家族4人）	◎ 実施した	妊娠期の教室は、夫婦での参加が大半を占めるようになり、家庭の力を高める支援ができてつつある。	参加ニーズがある方の参加が中心になりがち。	病院の両親学級が再開しているが、実技指導はされていないため、沐浴や調乳指導の継続が必要。
				多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	豊岡流ノラク家事・育児コミュニケーションシートを作成した。	◎ 実施した	豊岡流ノラク家事・育児コミュニケーションシートを作成し、振興局、子育てセンター、地域コミュニティ等に配布	シートの活用方法について検討する。	独自のセミナーやワークショップ形式での活用を検討。他部署が実施する子育て関係のセミナーや交流会等と連携した活用方法の検討
04-01-03	人生100年時代の将来設計（マネーシミュレーション・キャリアデザイン）セミナー	家庭の将来設計を考えるセミナーの検討・実施。	ジェンダーギャップ対策室・関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	但馬銀行との共催で、お金と未来のセミナー及び相談会を実施し、延べ29人が参加。	◎ 実施した	セミナー（2回）と相談会（4回）を開催し、女性の金融リテラシーを高めることができた。	いかににより多くの女性にライフプランとマネープランを考えるきっかけづくりを進めるのか。	豊岡流ノラク家事・育児コミュニケーションシートとのコラボセミナーの実施を検討する。
04-02-01	子育て中の男性の家事・育児スキル習得促進	子育てセンターにおける父親向け事業を実施する。 ・パパと遊ぼうデー ・パパの子育ち＆親育ち講座（総合センター）	こども未来課	こども未来課	父親向けの講座を実施し、育児に関わる情報提供を行っている。 ・パパと遊ぼうデー（各センター）：36回実施、131人 ・パパの子育ち＆親育ち講座（総合センター）：1回実施、5人	◎ 実施した	通常の事業では母親の参加がほとんどとなるが、父親向けの講座を実施することで、父親の参加が増える。	父親は平日仕事をしていることが多く、講座の実施が土曜日に限られてくる。	父親の参加者増加を図るため、参加しやすい方法を検討する。
04-02-02	人生100年時代のライフスタイル習得促進（介護スキル習得セミナー）	【家族介護支援事業】介護・健康の知識やスキルを深める介護教室や介護者相互の交流活動を行う。 男性が介護を理解し、主体的に関われるよう介護スキル等を学ぶ機会を増やす。	高年介護課	高年介護課	家族介護教室 延実施回数：32回 延参加人数：236人 介護者交流会 延実施回数：9回 延参加人数：49人	◎ 実施した	介護者の知識の習得やりフレッシュを図ることで、介護者の介護負担の軽減につながった。 参加者数実人数は減少している。	参加者が固定化している。	参加者実人数は減少。高齢者に関する総合相談窓口や介護支援専門員等にも個別に介護の相談ができる機会があること、近年のインターネット等も普及していることから、2025年3月31日をもって事業を廃止。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
04-02-03	人生100年時代のライフスタイル習得促進(介護スキル習得セミナー)	【認知症サポーター養成講座】 認知症について理解し、認知症の人や家族を温かく見守れるサポーターを養成する。 男性が介護を理解し、主体的に関われるよう介護スキル等を学ぶ機会を増やす。	高年介護課	高年介護課	認知症サポーター養成講座 延実施回数: 23回 養成者数 : 562人(男253人・女309人) 男性割合45.0%	◎ 実施した	認知症に関する正しい知識の普及・啓発につながった。男性参加率は増加している。	対応や声かけ等を身近なことから認識してもらえるような工夫が必要がある。	認知症関する正しい知識の普及・啓発とともに、対応や声かけ等を身近なことから認識してもらえるよう内容を工夫するよう努める。
04-02-04	人生100年時代のライフスタイル習得促進(介護スキル習得セミナー)	【認知症家族介護教室】 認知症の人を介護する家族等が、認知症に関する基本的な知識や介護技術を習得することにより、介護者の身体的・精神的な負担の軽減を図る。 男性が介護を理解し、主体的に関われるよう介護スキル等を学ぶ機会を増やす。	高年介護課	高年介護課	認知症家族介護教室 実施延回数: 2回 延参加人数: 46人(男20人・女26人) 男性割合 43.5%	◎ 実施した	認知症の知識や介護技術を学ぶ機会をつくり、介護者の身体的・精神的負担軽減をはかった。参加者数は少ないが、男性参加率は目標を達成している。	参加者がより参加しやすい環境づくりが必要です。	参加者が参加しやすいように、開催方法や周知方法を検討します。
04-02-05	子育て中の男性の家事・育児スキル習得促進	【若年性認知症の人と家族のつどい】 若年性認知症の人やその家族、医療や介護の専門職など誰もが気軽に参加できる集いの場で、情報交換や交流活動を行っている。 男性が介護を理解し、主体的に関われるよう介護スキル等を学ぶ機会を増やす。	高年介護課	高年介護課	若年性認知症の人と家族のつどい 延実施回数: 12回 延参加人数: 109人(男88人・女21人) 男性割合80.7%	◎ 実施した	市内医療機関・歯科・薬局等にポスター掲示を依頼し、周知を図った。家族の情報交換の場・当事者の居場所として開催した。参加者数は少ないが、男性参加率の目標は達成した。	「当事者の居場所づくり」としての役割を担う場が必要です。	情報共有や相談にとどまらず、当事者が望むことや思いを聞き、自分らしく過ごせる居場所づくりや社会参加に向けての支援ができるよう、関係機関と連携を図ります。
04-02-06	人生100年時代のライフスタイル習得促進(男性の家事・育児・介護スキル習得セミナー)	地域コミュニティでの事業で男性の家事・育児・介護教室などを検討・実施する。 (男性の料理教室、介護教室等)	地域づくり課・振興局	地域づくり課	地域コミュニティ組織で男性料理教室を実施	◎ 実施した	参加者は、男性も料理をするという意識がもてた。	参加者が固定化してきている。	新たな参加者を呼び込めるよう周知方法を検討する。
04-02-06	人生100年時代のライフスタイル習得促進(男性の家事・育児・介護スキル習得セミナー)	地域コミュニティでの事業で男性の家事・育児・介護教室などを検討・実施する。 (男性の料理教室、介護教室等)	地域づくり課・振興局	健康増進課	男性の料理教室 11～12月に3回 小野地区コミュニティセンターで開催 延19人参加	◎ 実施した	地元食材を使用するなど、調理初心者も楽しみながら調理実習を実施。教室修了後も、自主的に参加者を募りながら実施予定。	地区コミュニティにも周知協力をいただきながら、参加者を募っているが、参加者が少ない。	教室終了後の自主グループ化を目標の1つとしているため、実施する地区コミュニティを変えつつ、継続実施する。
04-02-07	子育て支援総合拠点の整備・活用	—	関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	女性の就労支援のため、定期的にハローワーク豊岡の出張就職相談をはじめ、IPPO TOYOOKA起業相談、キャリア相談、お金と未来の相談などを開催。	◎ 実施した	14コースの相談・セミナーに204人の女性が参加。	いかににより多くの女性に就業支援、起業支援、キャリア支援の相談・セミナーを受けていただくか。	より効果的なPRに努める。
				こども未来課	子育てなんでも相談室の利用:実327人、延べ912人が利用(新規相談35.9%)	◎ 実施した	利用の多い順に0歳: 76.6%、1歳: 11.8%、2歳: 4.3%	離乳食に関する相談が多かったため、ニーズに合わせた内容にしてい必要あり。	2024年度から、栄養士による離乳食相談の日を設定して対応する
				危機管理課	外国人向けの防災出前講座を実施。	◎ 実施した	3回実施。	参加人数が少ないこと。参加者の出身地域が異なることから、災害に対する考え方に大きな違いがあることから、どこまで危機感が伝えられているのか、手探りの状態。	関係団体と協議し、効果のある防災出前講座のあり方を検討する。
				多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	多文化交流サロン 実施回数: 24回(月2回実施) 参加者数: 375人(12カ国) 委託者: 豊岡市国際交流協会 NPO法人にほんご豊岡あいうえお	◎ 実施した	・外国人市民の居場所づくりの一助となった。 ・日本語教室受講者以外の参加者もあり、外国人支援団体の活動を知ってもらうことができた。 ・12か国の方の参加があり、様々な外国文化等を知ることができた。	外国人市民、中高生をはじめ幅広い方の参加を促すことが課題。	・「多文化交流サロン」の実施について、各団体のFB、市ホームページや社協団体の広報等でPRを行い参加を促すことで、外国人市民同士、または日本人と外国人が交流する機会につなげたい。
04-03-01	子育て世代包括支援センター関連業務	産後ケア(訪問型、宿泊型)、医療機関・関係機関との連携事業(養育支援ネット、養育支援訪問)、産前・産後サポーター(ホームヘルパー)派遣事業、マタニティママ&ベビー交流会、母子手帳アプリ等を利用した情報発信の充実。	こども未来課	こども未来課	産後ケア(訪問型: 延べ123回、通所型: 延べ41回、宿泊型: 実22人 延べ: 88件)※訪問型・通所型合わせて実93人(訪問型・通所型は重複利用があるため)、養育支援訪問(実66人、延べ245件)、産前・産後サポーター派遣事業(実9件 延べ49回)、マタニティ&パパママベビー交流会: 6回(妊婦32人、家族25人)	◎ 実施した	産後ケアの利用が増えた。	産後ケアの申請手続きが窓口に限られており、利用者本人や家族の負担が大きく、利用までのハードルが高いとの声を聞く。	2024年4月～産後ケア等の申請手続きをオンライン申請に移行。働く世代・産婦への配慮を強化する。

（様式１）課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
04-03-02	子育て世代包括支援セン ター関連業務 ・母子手帳交付時の面接	母子手帳交付に併せ総ての妊婦と 保健師が面談をし、安心して出 産・育児ができるよう支援する。	こども未来課	こども未来課	母子手帳交付件数 367件 養育支援ネットの件数 326件(市内妊婦 85件、市内産婦及び新生児175件、子ども の事故3件、市外妊婦12件、市外産婦及 び新生児51件)	◎ 実施した	全数面談ができています。	母子手帳交付日以外の窓 口交付が30.2%ある。	2024年4月～母子手帳交 付事前視聴動画 (YouTube)を作成。働く妊 産婦への配慮と、サービ スの見える化、手続きの 時間短縮化を図る。
04-03-03	子育て世代包括支援セン ター関連業務 ・新生児（乳児）訪問事業	保健師・助産師が出産後間もない 産婦の家庭を訪問し、相談や必要 な方に支援の導入を行う。	こども未来課	こども未来課	新生児訪問件数384件(95.3%)実施 2023年度～伴走型相談支援(妊婦訪問28 人、妊婦電話・面談348人)	◎ 実施した		新生児訪問の結果、要医 療要支援の家庭が38.2% ある	産前産後の切れ目ない支 援が必要。子育て応援給 付金の制度を活用し、全 数把握に努める。
04-03-04	子育て世代包括支援セン ター関連業務 ・ベビー人形による育児体 験	産前にベビー人形による、育児の 体験を行い、スムーズな育児を促 すお世話体験を行う。	こども未来課	こども未来課	お世話体験会：21回開催(妊婦88人、家族 77人) マタニティパパママベビー交流会：6回(妊 婦32人、家族25人)	◎ 実施した	妊娠届出数は減少傾向に あるが、利用率・父親参加 率は横ばいとなっている。	受け皿として、希望者や必 要な方にしか実施できて いない。	病院の両親学級が再開し ているが、実技指導はさ れていないため、沐浴や 調乳指導の継続が必要。
04-03-05	支え合い生活支援サービス 事業の充実	自宅を訪問して実施するサービス で調理を除く家事援助と配食や見 守り等の生活支援を一体的に提供 する。 介護に関する支援を充実させるこ とにより、家庭内におけるケア責 任を分かち合う。	高年介護課	高年介護課	支え合い生活支援サービス 実施地区数：11地区 延利用者数：1,379人	◎ 実施した	介護予防や在宅生活を継 続する支援になった。	事業者・市民への事業趣 旨等の啓発が更に必要で す。	社会福祉法人・NPO法人 等への説明を行うととも に、各種会合を活用して、 本事業の啓発等に努めま す。
04-03-06	ファミリーサポートセン ターの制度周知と会員数の 拡大	子育て支援の一環として、ファミ リーサポートセンターの制度周知 と会員数の拡大を図る。	こども未来課	こども未来課	会員数：おねがい会員235人(+34)、まか せて会員70人(+12)、どっちも会員75人 (+4)。 活動件数：預かり 181件(+14)、送迎 392 件(+80)。	◎ 実施した	年々会員数が増加してい る。また、コロナ禍終息に より活動件数も回復してい る。	おねがい会員の希望の全 てには応えられていない。 預かり手であるまかせて 会員の確保が必要。	会員数の拡大を図るた め、PRや交流事業等を続 ける。
04-03-07	子育て世帯への情報提供シ ステムの構築	子育て世帯への子育てに関する総 合的な情報提供システムを構築す る。（アプリの導入検討・実施） ※ひとり親家庭支援情報も含む。	関係課（こども未来 課、こども支援課、 幼児育成課・社会福 祉課等）	こども未来課	母子モアプリ登録者 2,203人。 (登録者の性別 男:162人、女:1,944人、不 明:97人)	◎ 実施した	1歳6か月健診の質問票の アプリ回答率が、40.7%と 増加してきている。(2021 年度18.6%、2022年度 22.2%)	男性の登録者を増やす必 要がある。	わかりやすい情報発信を 行う。
04-03-07	子育て世帯への情報提供シ ステムの構築	子育て世帯への子育てに関する総 合的な情報提供システムを構築す る。（アプリの導入検討・実施） ※ひとり親家庭支援情報も含む。	関係課（こども未来 課、こども支援課、 幼児育成課・社会福 祉課等）	こども支援課	総合的な情報提供システムの構築は行ってい ないが、ひとり親を対象としたLINEアカウント 「豊岡市ひとり親応援LINE」を開設し情報提供 を行っている。 2024.7.31時点で423人登録済み	◎ 実施した	児童扶養手当に関する情 報のほか、職業訓練の案 内、相談会や勉強会等開 催の周知に役立ってい る。	・LINE登録者数の拡大 ・効果的な配信方法 ・LINEを活用した相談機能 の可能性	・児扶手受給者へLINE登 録の周知徹底 ・他部署と連携し、ひとり 親に有益な情報を配信 ・AIチャットボット機能の研 究
05-01-01	ひとり親家庭の経済的自立 応援事業	ひとり親意識調査の実施、相談支 援体制の充実、ひとり親非正規雇 用者に対するステップアップ支 援、看護師・保育士等資格取得支 援の実施などにより、ひとり親家 庭の経済的自立を応援する。	こども支援課	こども支援課	①母子・父子自立支援プログラム策定 34 名 ②プログラム策定利用者のうち2023年度 中に目標達成した人数内訳 ・非正規から正規2名 ・就職4名 ・転職 4名 ・資格取得9名 ③自立支援教育訓練給付金の支給 4名 ④高等職業訓練促進給付金の支給 2名	◎ 実施した	2021年度から実施してい る母子・父子自立支援プ ログラム策定は住宅支援 資金貸付との併用で経済 的メリットが大きく、利用者 が多い傾向が続いてい る。また、資格取得を目標 にする方が増え、自立支 援給付金の支給も増加傾 向となっている。	・意欲の低いひとり親への 対応 ・ひとり親向け経済的支援 制度の効果的な情報発信	・LINE配信を効果的に活 用し支援制度や学習会等 の情報提供を強化 ・児童扶養手当申請時や 現況届提出時等に無職や 低所得のひとり親に対し プログラム策定制度の利 用勧奨を実施。
05-01-02	子育て中の女性の就労促進 （ブチ勤務：短時間少日数 勤務）	復職へのハードルを下げながら、 未就労の子育て中の女性と事業変 革に取り組む市内事業所とのブチ 勤務（少日数・短時間勤務）によ るマッチングを進める。また、 キャリアデザインのためのセミ ナーも併せて開催。※コロナ禍に よる市内の経済情勢や雇用情勢な どをみながら実施を判断。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェン ダーギャップ対策課	2020年からのコロナ禍を受けて雇用情勢が激 変したため、女性デジタル人材育成にシフトし ている。今後、市内の子育て中の女性と企業 のニーズもリサーチしながら再開の検討を続 ける。	× 実施を検討していない			
05-01-03	子育て中の女性の就労促進 （デジタル・マーケティング 人材の育成）	コロナ禍のDX（デジタル・トラ ンスフォーメーション）の加速を 見据えて、子育て中の女性を対象 にデジタル・マーケティング人材 を育成するとともに、出口戦略 （就労先の確保）に取り組む。	ジェンダーギャップ 対策室	多様性推進・ジェン ダーギャップ対策課	7月から定員どおり10人で、5カ月間で約180時 間のオンデマンド授業(オンライン式)と月1～ 2回のスクーリング授業(対面式)をスタート し、10人全員が受講修了。 経営者対象のデジタルマーケティングセミナー を実施し、28人が参加。	◎ 実施した	受講修了者10人の内、5 人が起業済み、2人が起 業準備中、2人が転職、1 人が個人事業主として販 路拡大・売上増加を目指 し取組中。	市内経営者のデジタルへ の理解を深めることと。5 カ月間約180時間の長丁 場でいかにドロップアウト を防ぐのか。	継続して実施する。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
05-01-04	起業支援体制の充実 (IPPO TOYOOKA相談)	ビジネス無料相談窓口(月4回程度、無料)を開設し、若者や女性の創業者や、既存事業者の新展開などへの相談やセミナーを開催する。	環境経済課	環境経済課	・相談者数:80名(男性:36名、女性:44名) ・相談実施件数:204件(利用率:97.6%) ・起業者数:19名(男性:6名、女性:13名) ・相談員:2名体制	◎ 実施した	・コロナ禍後、起業意欲が向上しており、過去最高の19名が起業に至った。 ・起業者の割合では、女性が男性の2倍超となり、女性の起業が活発化している。 ・起業セミナーを4回開催し、市内起業の啓発が図れた。	・支援機関との情報共有 ・新規相談者の獲得	・引き続き女性や若者を主なターゲットとして募集 ・起業セミナー等を通じた起業意識の喚起 ・支援機関との連携強化 ・新規相談の発掘
05-01-05	UIターン促進	移住・定住増につなげるため、豊岡の「くらし、仕事、住まい」情報を発信の他、各種相談会、説明会等を開催する。	地域づくり課	地域づくり課	・相談者数:213名(男性:129名、女性:84名) ・移住者実績:58世帯115名(男性:57名、女性:58名)	◎ 実施した	効果的な情報発信や支援制度を実施したことにより、移住者数が4年連続100名を超えた。	・移住した後のサポート体制	・移住者交流会などのイベントを開催することにより、移住者同士の交流機会を創出する。
05-01-06	創業支援補助金	多様な創業・事業承継を促すため、創業時の初期費用を支援する。特に若者(満45歳以下)及び女性は補助率を2分の1(それ以外は3分の1)として、スタートアップを応援する。上限100万円。	環境経済課	環境経済課	・交付決定者:8者(男性:3名、女性:5名) ・実績額:6,593千円	◎ 実施した	・市内で新たな創業又は事業承継を促すことで、特に若者(満45歳以下)や女性の創業時の初期費用を支援することができた。 ・2023年度も創業された女性の数が男性を上回った。	・創業後のフォローアップ	・2023年度に初開催した補助金交付後の取組発表会の継続実施
05-01-07	IT関連事業所開設支援補助金等(企業誘致)	若い女性が働きたいと思う(プチ時間勤務を含む)職場を増やすため、IT関連事業所に対し「賃借料」などの支援を行う。	環境経済課	環境経済課	・交付決定者:5件(継続分5件) ・実績額:6,326千円	◎ 実施した	若者や女性が働きたい職場となることが期待されるIT関連企業の誘致が実現した。	・誘致した企業の雇用者数 ・新規誘致の獲得	・現在の誘致方法を継続し、雇用の増加や従業員の市内移住に繋がる新規誘致を目指す
05-01-08	地域おこし協力隊員の募集・受入れ	地域や各種団体における地域活性化や地域づくり、また、課題解決への取組みなど自主的な活動を促進させるために都市部から人材を受け入れる。	地域づくり課	地域づくり課	・募集メニュー、募集人数:13メニュー、13人 ・合格者数:11人 ・応募者数:39人 ・応募倍率:3.0倍	◎ 実施した	・民間サイトを活用した効果的な募集を実施し、応募倍率は3倍となった。 ・定住率は63.8%となり、全国平均52.0%を上回った。	・隊員同士のつながりのサポート ・卒業後の定着率	・隊員同士の交流会のサポート ・幅広い形態での協力隊の受入れ
05-01-09	スマート農業推進	スマート農業(機械化・省力化・軽労化、アシストスーツの普及等)の推進により、女性が農業で活躍できる機会の創出を促進する。	農林水産課	農林水産課	①兵庫県が実施する、生産コスト低減に資するスマート農業機器等の導入支援「農業生産コスト低減緊急対策事業」を実施した。(申請28件中女性経営者1名) ②スマート農機限定ではないが、国の臨時交付金を活用し低コスト化・省力化に資する機械導入を支援する「豊岡市農林水産業生産コスト低減機器等導入支援事業」を実施した。(申請256件中女性農業者9名)	◎ 実施した	スマート農業機器ではないが、自走式草刈り機など、女性が農業で活躍できる機器の導入が促進された。	スマート農機は、まだまだ高額な機器が多く、補助事業がないと導入が困難	女性農業者グループ等との意見交換により現場ニーズを把握し、今後の施策に反映する。
05-01-10	農業スクール (新規就農支援)	農業を志す女性が、技術と経営を学ぶ機会を創出する。	農林水産課	農林水産課	実績なし(女性の研修生 0名)	× 実施を検討していない	実績なし	特になし	性別を問わず、研修生を募集する。女性の研修生が研修を受ける場合に、本人の希望があれば、同性の受入農業者とのマッチングを調整する。
05-01-11	子育てママの活躍機会促進	子育て中の女性の社会的な活躍機会を広げる。また活躍している姿を周りに見せることで、女性のみならず、男性にも子育て期が社会的にプラスのキャリアとなることの理解を促進する。			団体の自主的な運営が軌道に乗るまで市として補助金による支援を行っていたが、2021年度をもって補助制度を廃止している。	× 実施を検討していない	NPO法人ママの働き方応援隊の取組状況は把握していない。	活動を安定的に継続させるためには、人材の育成・確保と事業の周知が必要となる。 組織改革により、事業を推進する担当課がない。	事業の進捗状況を把握し、推進するためには担当課を設定するか、事業目的が達成されたために事業を終了する。
05-01-12	DV相談支援体制の充実	DV被害者からの相談を受け、関係機関と連携して個々のケースに応じた対応を行う。	こども支援課	こども支援課	DV相談対応 19件(相談回数77回)	◎ 実施した	対応ケースのうち一時保護が1件、保護命令が2件であったが、母子施設に入所するようなケースはなかった。関係部署と連携し、被害者の身の安全や精神面を配慮しながら適切に対応できた。	関係部署との迅速な連携	DVが発生したときの対応フローについて、関係部署との共有を図る。
05-02-01	地域の人材を発掘・育成 (女性や若者向けの地域づくり研修)	(再掲)	地域づくり課・振興局	地域づくり課	02-02-02参照				
05-02-02	様々なロールモデルと出会う機会の創出	子育てしながら働く女性、異業種、起業家、女性従業員、女性消防職員等がロールモデルと出会う機会を創出する。	ジェンダーギャップ対策室・関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	ワークイノベーション推進事業で市内企業の女性社員を対象としたキャリアサポート研修などを実施。	◎ 実施した	延べ37事業所53人が参加。	より多くの事業所から多様な女性社員に参加してもらえるようにするのか。	より効果的なPRに努める。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
				消防本部	2023年5月に豊岡警察署に勤務する女性警察官との意見交換会を実施した。	◎ 実施した	異業種である女性警察官との意見交換は、刺激になったと感じられる。職種は違えど、担う任務には似たような部分もあり、有意義な会であった。	継続できるかどうかが課題	異業種であることから、継続していくためには、組織での調整が必須と考える。継続できるよう実施方法等について検討していく。
05-02-03	女性のネットワークづくり (地域、移住者、子育てしながら働く女性、異業種、起業家など)	地域、移住者、子育てしながら働く女性、異業種、起業家などの女性同士のネットワークづくり(女性同士の座談会、FMジャングル公開収録等)	ジェンダーギャップ対策室・関係課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	女性人材育成プログラム「豊岡みらいチャレンジ塾2023」を開講し、全5回を実施した。受講者23人。ありがたい姿に向けて一歩踏み出す知識とスキルを身につけると同時に、参加者同士のネットワークづくりの場となるようプログラムを組んで実施した。	◎ 実施した	世代や仕事、立場を超えて、受講者同士での緩やかなネットワークづくりにつながった。		引き続き、女性同士のネットワークづくりの場の提供に努める。
				消防本部	2023年12月に但馬内の消防本部(南但消防本部、美方広域消防本部)に勤務する女性職員との交流会を実施した。	◎ 実施した	美方広域消防本部に女性消防吏員が在籍したことにより、組織間の交流事業として正式に但馬消防本部の女性消防職員との意見交換を行うことができた。女性消防職員のネットワークづくりのスタートになったと捉えている。	継続して開催していくことが重要と考える。但馬3本部が組織としてサポートすることを調整していく。	まず、組織としての開催を定期的に行い、職員同士の親睦を深めることを図っていく。その後、職員同士が各々で交流できるように基盤を構築していく。
				地域づくり課	取組みなし	× 実施を検討していない			
05-03-01	ひとり親家庭の総合的な相談支援体制の構築(ワンストップ化)	児童扶養手当をはじめ、子育て、就労支援など、ひとり親支援に関する相談業務のワンストップ化を検討し、ひとり親家庭が利用しやすく、より分かりやすい相談支援体制を構築する。	こども支援課	こども支援課	2023年度の組織改編により、ひとり親支援を所管することも支援課が本庁舎6階に配置されたため、母子保健や教育委員会関連の手続きが同フロアで対応可能となったほか、離婚届出や住民異動、母子家庭医療等の1階窓口での手続きに関しても同じ庁舎内で対応できるようになり、ひとり親家庭が利用しやすい窓口(相談)体制となっている。	◎ 実施した	立野庁舎と本庁舎の庁舎間移動の必要がなくなり、ひとり親家庭が効率よく手続きや相談を行えるようになった。また、関連する部署との連携もスムーズになった。	特になし	
05-03-02	ひとり親家庭支援制度の啓発促進	特に離婚間もないひとり親家庭の保護者に対して、資格取得に向けた訓練給付、修学資金等の貸付など各種支援制度を積極的に啓発する。	こども支援課	こども支援課	児童扶養手当の新規申請のため来庁された方には面談を実施し、ひとり親家庭支援制度を案内している。あわせて、ひとり親家庭向けのLINE登録を依頼している。児童扶養手当新規申請者数50名(年間)	◎ 実施した	対面での制度案内であるため、詳細に説明でき、必要な方へは積極的に利用を促すことができた。	必要な支援制度はライフステージによって異なるため、定期的な情報発信が必要。	市HPやひとり親LINEでひとり親家庭支援制度に関する情報を定期的に発信する。
05-03-03	ひとり親家庭相談(母子父子自立支援員)	母子・父子自立支援員が、ひとり親家庭への今後の相談や離婚相談等を行い、自立に向けて支援する。	こども支援課	こども支援課	離婚前相談、離婚後の各種相談対応 支援相談件数 454件 相談回数 1,040回	◎ 実施した	相談件数は年によって増減があるが、相談回数は年々増加傾向となっており、多岐にわたる相談内容に支援員がきめ細かな対応をしている。	特になし	引き続き実施する。
05-03-04	ひとり親非正規雇用者ステップアップ支援	ひとり親家庭の非正規雇用者等を対象に、ステップアップセミナーや個別相談会を実施することにより、安定就労に向けた意識改革と行動を促し、正規雇用への転職や就職につなげる。	こども支援課	こども支援課	ステップアップセミナーは2020年度から3年間の実施を一区切りとして2022年度で終了。2023年度以降は母子父子自立支援プログラム策定により就職転職やスキルアップに向けた個別支援を強化している。	× 実施を検討していない			
05-03-05	ハローワークと連携した女性の就職相談会(一時保育あり)	出産等を機に離職を余儀なくされた未就労の子育て中の女性を対象に、事業所別の個別就職相談会を開催。なお、子育て支援総合拠点では定期的な開催をめざす。	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	毎月第4金曜日の午前ハローワーク豊岡の出張就職相談会(子育てママ対象)を女性相談員により実施。9月7日子育てママ向けマナーセミナー、10月23日、25日子育て世代応援! 就職相談フェア、11月1日子育て世代のための職業訓練・就職セミナー、12月7日子育てママ向け就職応援セミナー実施。	◎ 実施した	4月～3月ハローワーク豊岡出張相談18人、9月マナーセミナー10人、10月相談フェア27人、11月セミナー5人、12月セミナー15人。	近い将来的には、いかに就職において正規社員化につなげていくのか。	ハローワーク豊岡、豊岡商工会議所など関係機関・団体等との一層の連携に努める。
05-03-06	ひとり親が気軽に相談しやすい相談窓口の環境整備	仕事などにより平日に相談来所しにくいひとり親に対して、現況届の受付時期に合わせ休日相談を実施する。	こども支援課	こども支援課	現況届の受付時期に、夜間受付として3日間19時まで開庁し、合計30件程度の相談対応を行った。	◎ 実施した	休日に相談日を設定するよりも平日の夜間相談の方が利用者が多く、利用者からも好評だった。	特になし	引き続き実施する。
05-03-07	子育て支援総合拠点の整備・活用	(再掲)	関係課		04-02-07参照				
06-01-01	ジェンダーギャップ解消に係る教職員研修の実施	学校運営への積極的な参加を促し、ジェンダーギャップ解消の視点等を取り入れるなど、人材育成と効果的な学校運営の推進を図るため、ミドルリーダーを対象に学校教育経営研修会を開催する。	学校教育課	学校教育課	①講義及び演習(3回)実施 ・学校組織マネジメント ・カリキュラムマネジメント ・働き方改革等 ②論文作成	①実施済 ②論文3本提出	ミドルリーダーが学校運営に関心を持つことができた。	女性管理職希望者の割合は少ない。	①引き続き、主幹教諭等のミドルリーダーを目指す教員も受講対象者に加える。 ②講義内容に「女性職員が能力を発揮し活躍できる職場づくり」等を加える。

(様式1) 課別事業一覧

	具体的手段を 実現するための事業	事業概要	担当課 2023年度	担当課 2024年度	① 取組状況・実績 (2023年度)	② 進捗状況 (2023年度)	③ 評価・検証(事業実施に伴う成果及び課題等の分析等)		
							成果	課題	今後の対応
06-01-02	保育園・認定こども園・幼稚園で多様性（ジェンダー含む）の保育・教育の実施	保育園・認定こども園・幼稚園で多様性（ジェンダー含む）がテーマの絵本等を購入して活用する。（全園に毎年1冊ずつ増やす）全39園（公立・私立含む）	幼児育成課	幼児育成課	前年度ジェンダーギャップ対策室から配布された絵本を活用した。	◎ 実施した	絵本を通してジェンダーギャップを身近に感じるきっかけとなった。	保育現場の中でのジェンダーギャップについての保育者の捉え方と、幼児期だから伝えたい内容についての認識の違い。	ジェンダーギャップ対策室を中心として取り組んでいる幼児向け絵本作り（2024年度発行予定）に協力する。
06-01-03	メモリアル防災・減災授業の教材づくり	少年期におけるジェンダー視点を取り入れた教育はジェンダーギャップ解消には必須である。毎年幼稚園、小・中学校で実施している台風23号メモリアル防災・減災授業の教材の中に、例えば災害時の避難所におけるジェンダーギャップの解消の考え方等をトビックス的に盛り込み、先生方から考え方について指導いただく。	危機管理課	危機管理課	台風23号メモリアル防災教育教材（小学校高学年用）の副読本内に、避難所生活を例にとり、様々な人々が集まる環境下において、互いに思いやること・配慮すること・協力し合うことに気づきを与えられるようなスライドを追加した。	◎ 実施した	一部の学校では、台風23号メモリアル防災・減災授業において資料を活用した	スライド内容のブラッシュアップ	引き続き事業を行う。
06-02-01	ジェンダーギャップ解消に係る学習の推進	①中学校3年生社会科「公民的分野」における男女共同参画社会についての学習 ②小・中学校での家庭科「家族の生活（小）」「自分の生活と家族・家庭生活（中）」におけるワーク・ライフ・バランスについての学習 ③小中学校での道徳、総合的な学習の時間、コミュニケーション教育等を活用し、他者理解と合意形成についての学習 ④ふるさと学習（中学校での市長講話） ⑤中学校での進路学習（キャリアデザイン） ⑥生徒会リーダー研修会でのテーマ	学校教育課	学校教育課	①中学校3年生社会科「公民的分野」において男女共同参画社会について学習 ②小・中学校での家庭科「家族の生活（小）」「自分の成長と家族・家庭生活（中）」におけるワーク・ライフ・バランスについて学習 ③道徳で「他者との関わりに関すること」を学習し、コミュニケーション教育では、「他者と協働する」視点で話し合い活動等に取り組んでいる。 ④全中学校で実施した。 ⑤社会的・職業的自立に向けたキャリア教育。 ⑥ジェンダーギャップをテーマとはしなかった。	①実施済 ②実施済 ③道徳での「他者との関わりに関する学習」は年間7時間程度実施。その中で、男女の協力や友情についても学んでいる。 すべての小中学校で演劇的手法を取り入れたコミュニケーション授業を実施。 ④実施済 ⑤実施済 ⑥未実施	①男女の平等と女性差別の解消について理解を深めている。 ②ジェンダー平等のもと、人間らしい生活、誰もが尊重される社会について理解を深めている。 ③道徳では、学校の教育活動全体をととして、児童生徒の道徳的心情の向上が図られている。 他者や自己との対話を通して考え、議論する授業が展開されている。 ④多様性、多様な価値観を認めることへの理解につながった。 ⑤キャリアの視点に立って、一人ひとりの可能性を伸ばす指導が行われている。 ⑥活発な話し合いを通して、理解を深めた。	①他教科領域との関連において知識の活用を図る。 ①他教科領域との関連において知識の活用を図る。 ②他教科領域との関連において知識の活用を図る。 ③養われた心情を実践意欲と態度、日常生活に繋げていくこと。授業だけでなく、すべての学校教育活動においてコミュニケーション能力を高める。 ④多様な視点から将来を見据えた指導を進める必要がある。 ⑤様々な視点からのキャリア教育を進める必要がある。 ⑥未実施	①次年度も同様に学習 ②次年度も同様に学習 ③今後も継続実施。 ④今後も継続実施。 ⑤今後も継続実施。 ⑥実施の予定なし。
06-02-02	デートDV防止教育	中学校の保健体育科、学級活動、総合的な学習の時間等において、デートDVの正しい知識と適切に対応できるスキルを学習し、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する。	学校教育課	学校教育課	中学校保健体育科を中心に、デートDVを上げている。	◎ 実施した	性に関する適切な態度や行動の選択について理解することにつながっている。	文部科学省作成のデートDV教材を活用するなど、知識や対応方法について、さらに分かりやすく伝えようと、自分事として捉えさせる必要がある。	今後も継続実施
06-02-03	高校でジェンダー視点を取り入れたキャリア教育の取り組み促進(啓発)	—	ジェンダーギャップ対策室	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	トライアルで、女子中高生向けプログラミング体験Campを実施し、4人（中学生2人、高校生2人）が参加した。	◎ 実施した	IT分野などに関心をもってもらうきっかけとなった。	より多くの女子中高生に参加してもらうこと。なぜ女性だけなのかを丁寧に説明すること。	継続して実施する。